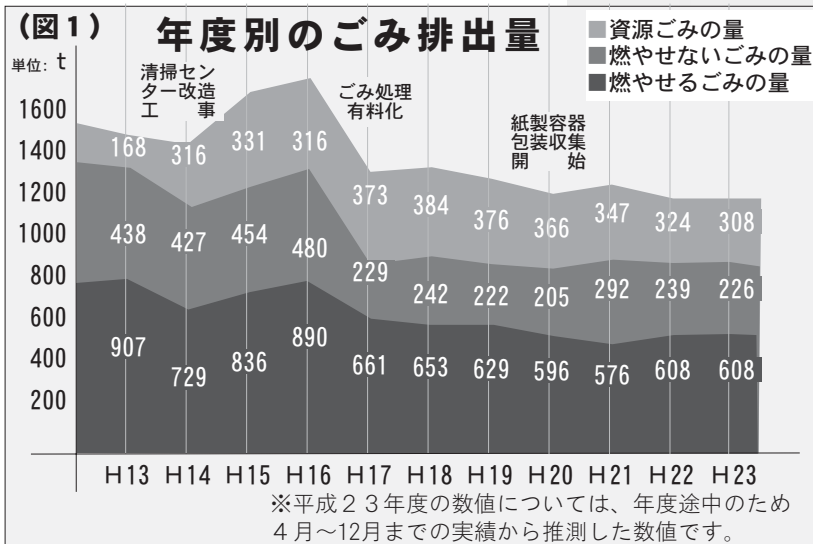


ごみの減量化とリサイクルにご協力ください



町のごみ排出量

今年度のごみの排出量は、前年度と比べると燃やせるごみは同程度、燃やせないごみ、資源ごみは減少する見込みとなっております。(図1)

一人当たりの年間ごみ排出量は、燃やせるごみ、燃やせないごみともに有料化が始まった

(図2) 一人当たりのごみ排出量

単位 (kg)

	H16	H17	H18	H19	H20	H21	H22	H23
燃やせるごみ	178	135	136	132	128	126	134	135
燃やせないごみ	96	47	50	47	44	64	53	50
資源ごみ	63	76	80	79	79	76	72	68
計	337	258	266	258	251	266	259	253

※平成23年度の数値については、年度途中のため4月～12月までの実績から推測した数値です。

平成17年度には大きく排出量が減り、その後も、徐々に減少してきましたが、平成21年度以降、燃やせるごみ、燃やせないごみは増加傾向にあります。(図2)

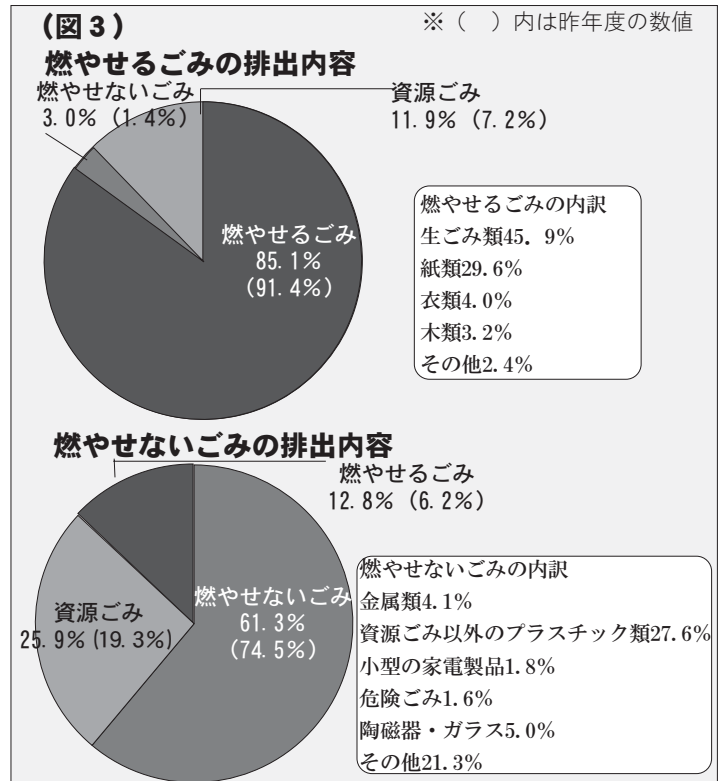
資源ごみは平成17年度に廃プラスチック、平成20年度に紙製容器包装を新たに資源ごみの品目としたことにより、有料化前に比べ平成20年度までは大きく増えていました。しかし、その後は分別意識の低下などにより徐々に減少傾向にあります。

ごみの排出内容の分析を行いました

9月、10月、11月に燃やせるごみ、燃やせないごみそれぞれ約100kgの排出内容を分析しました。(図3)

燃やせるごみの中には燃やせないごみは約3%、資源ごみは約12%混入していました。燃やせるごみの中の燃やせるごみは、昨年度の結果と比べると、約6%減少しており、こ

※ () 内は昨年度の数値



ちらについても分別意識が低下してきています。

また、燃やせるごみのうち約半分は生ごみ類が占めており、その生ごみ類の半分は水分が占めています。

生ごみ類は、コンポスター等で堆肥化を行うか、水分を十分切ってから捨てるようにすると、ごみをかなり減量することができます。

また、ダイオキシン類は、焼

却温度が低くなった時に大量発生するため、水分を切ることでダイオキシン類の発生を抑制することができます。

燃やせないごみの中には燃やせるごみが約13%、資源ごみが約26%混入していました。燃やせないごみの中の燃やせないごみは、昨年度の結果と比べると、約13%減少しており、こちらについても分別意識が低下してきています。

廃プラスチックの分別

廃プラスチックの容器包装比率は95%と昨年度から比べると良くなっています。汚れが付いているものが含まれていたり、廃プラスチックの袋に空き缶、また紙製容器包装の袋に廃プラスチックなど、全く違う素材が混入しているケースも多く見られます。(図4)

(図4) 廃プラスチック品質検査結果

検査項目	重量	割合	H22廃プラスチック収集量
問題のない廃プラスチック	61.38Kg	95.19%	39,732Kg
リサイクルにならない廃プラスチック	3.10Kg	4.81%	2,008Kg
汚れが付着したもの	(1.24Kg)	(1.93%)	(806Kg)
PETボトル	(0.00Kg)	(0.00%)	(0Kg)
缶・ビン・紙	(0.08Kg)	(0.12%)	(50Kg)
容器包装以外のプラスチック	(1.58Kg)	(2.45%)	(1,023Kg)
事業系の容器包装	(0.20Kg)	(0.31%)	(129Kg)
計	64.38Kg	100.00%	41,740Kg

リサイクルセンターでも職員の手で選別を行い、業者へ引き渡す際には違う素材が混入しないようにしています。それでも品質検査の結果、異物が混入しており、家庭におけるさらなる分別の徹底をお願いします。

ダイオキシン類測定調査結果

10月に行った平成23年度のダイオキシン類の測定結果は、これまでと同様に国の基準を大きく下回り、安全性が確認されています。(図5)

(図5) ダイオキシン類の測定結果

測定項目	国の基準値	H13	H22	H23
排ガス	10ナノグラム以下	1.1	0.69	0.17
焼却灰	3ナノグラム以下	0.19	0.001	0.012
土壌	1000ピコグラム以下	5.8	0.12	0.0086
放流水	10ピコグラム以下	0.0035	0.00026	0.00039

出来ることから始めてみませんか？

ごみは生活にいちばん身近な問題です。町民と町とが情報を共有し、一緒に考え、ごみの減量化を一步ずつ進めていくことが大切です。

ダイオキシン類はプラスチック・ビニール類を焼却したとき、また焼却温度が低くなったとき大量に発生するため、徹底したごみの分別や生ごみの堆肥化、水気切りが大切です。これらは同時に施設の延命化にもつながることであり、今後とも安全な基準でごみが処理できるよう、皆さんのご協力をお願いします。

特に燃やせるごみ、燃やせないごみの排出量を減らすこと

で経費の負担を少なくし、今使っている清掃センター、最終処分場の延命化にもつながります。

ごみを無くすことは出来ませんが、分別の徹底、汚れているごみを洗うなど一手間掛けることで量を減らすことが可能です。また、生ごみも十分に水分を切ることで量を減らすことができます。

住みよい環境を次の世代に残すためにも、毎日の生活を少しだけ見直してみませんか。

生ごみを捨てる前にひと手間
生ごみをごみとして捨てる場合、ちよつとした工夫やひと手間です。単に水分を減らすことができます。

例えば
・野菜や果物を切つてから洗う
・野菜くずなどはトレイの上で1日乾かす
・三角コーナーからごみ袋に捨てる前に必ず水気を絞ります

水分を切れば、悪臭を減らし、ごみ袋も軽くなります。他にも水分を切る方法がありますのでいろいろチャレンジしてください。



ごみの分別に迷ったら・・・

ごみの分別に迷ったら、「ごみだす」をご覧ください。ごみの出し方や50音順にごみの分別の方法が掲載されています。この冊子はすでに各戸へ配布されていますが、お手元にない方は、お問い合わせください。

また、冊子に掲載されていない品目で、分別の方法が分からないときもお気軽にお問い合わせください。



ごみ処理に関するお問い合わせは
町民課町民生活グループ
(生活環境担当)
☎25-3577
清里町清掃センター
☎25-3363